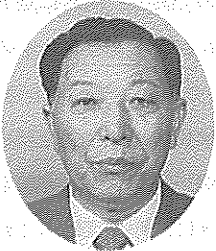
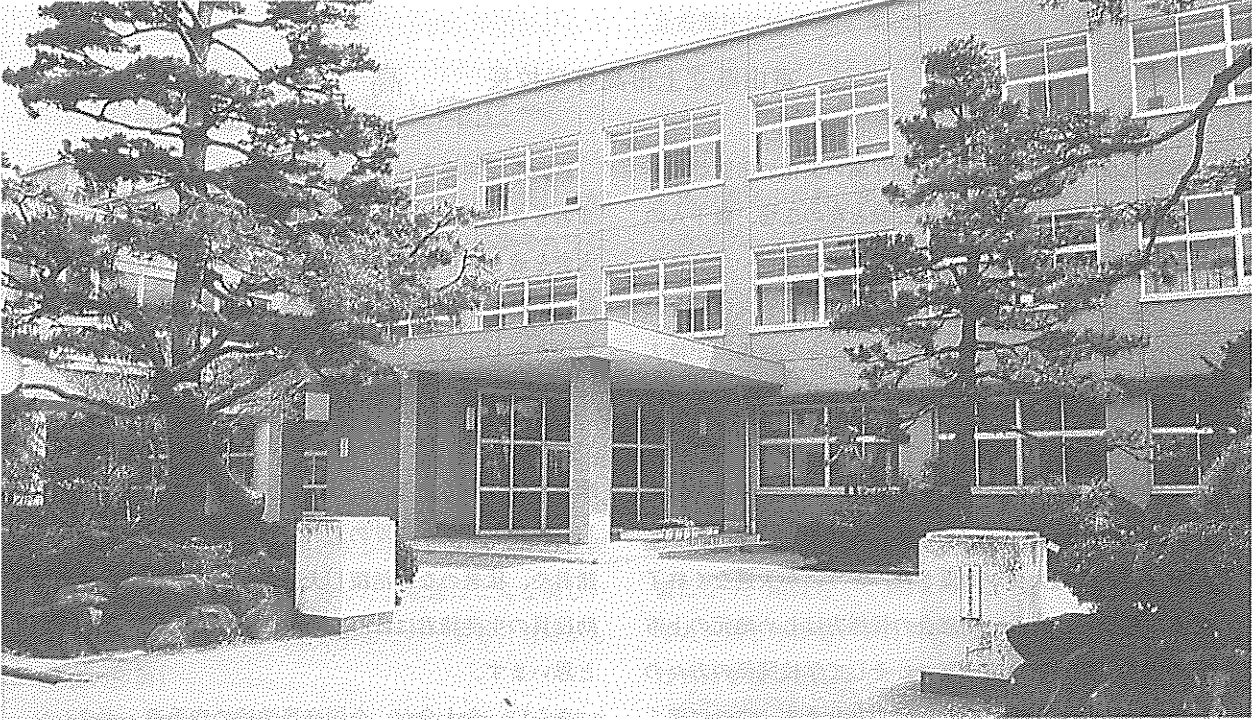


# 同窓会会報

第43号

平成7年8月20日発行

富山県立上市高等学校同窓会



## 支部活動の活性化を望む

同窓会長 柳 瀬 菊太郎

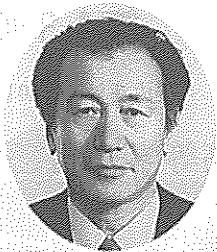
今年は例年になく豪雨による大水害や猛暑続きによる干害等、気象変化の激しい年ですが、それにもまして大震災・地下鉄サリン事件等、大変な事件が続発している不安定な社会情勢下、会員各位には益々、ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

同窓会員も今春291名の新会員を迎え、累計19,116名の多くを数え強力な同窓会となりました。また、母校上市高校も昨年本県で行なわれた全国高校総体を契機にスポーツ面において輝かしい成果をあげました。スポーツで成果をあげれば学習面においても同様であります。他方、施設設備の充実も進められていますが、なによりも教職員一丸となって生徒の育成に努力され、着々成果をあげておりますことに深く敬意を表するものであります。

同窓会の事業の重点目標に「支部活動の活性化」をあ

げておりますが、現在県内外で7支部あり、夫々活動しておりますが、とりわけ関東、滑川支部の活動が目覚しく、関東支部では本年10月7日(土)、代々木で既に総会が予定されています。また、滑川支部では毎年会員研修のために外部講師による講演会を開く等活発に活動されています。これこそ同窓会発展そのものと思います。会員数の最も多い地元上市支部の運営について一層の研究をお願いするものであります。

学校当局では創校80年を目指して仮称「創校80年記念事業準備委員会」が設立され計画立案に入る予定と聞いております。同窓会といたしましても今後共母校発展のため、会員各位の一層のご理解とご支援を切に願います次第であります。



## 平成6年度全国高等学校 総合体育大会を終えて

富山県立上市高等学校長 高 森 弘

霊峰剱岳の麓、スポーツと香り高い文化の田園都市をめざす名水の里上市町。豊かな緑と花の広場、数千人の観客を収容できる野球場や何面もの素晴らしいテニスコート等に囲まれた「夢のスポーツ総合公園」丸山総合公園の中心に、この大会のために、なんと20数億円が投入されライトグリーンの素晴らしい上市町総合体育館が新築されました。

その会場には、約850名の各県代表の選手諸君を迎え、平成6年度全国高等学校総合体育大会第21回全国高等学校空手道選手権大会が開催され、どうにか大過なく終了できました。これも、同窓会の皆様方はじめ地元の上市町の方々、空手道連盟の方々、そして学校関係の方々のおかげであります。ここに深く感謝申し上げますと同時に、心から敬意を表したいと思います。

私達は町当局と共に、全国の選手諸君が連日の記録的な猛暑のなかでも、日頃から休むことなく努力し続けて体得した実力が十分発揮できるように、大型の冷房機を24台も特設するなど、施設・設備のことをはじめ、シャトルバス・タクシーの確保や会場までの誘導員配置など交通に関する事、さらに、運営に関する事等について懸命に取り組みました。

今大会が若者らしい闘志あふれる好試合により大会のスローガンにふさわしい爽やかな涙と感動の大会であって欲しいと、関係者一同、期待し願っておりましたが、予想以上の闘志あふれる気迫に満ちた熱戦が随所にみられました。さらに、私達地元の者にとって幸運なことに、男女ともに団体戦において、本校の全選手が最終日の準々決勝まで勝ち残ったことがこの大会の雰囲気はいっそう盛り上げていたようであります。

高岡市で開催されたボクシング大会でも本校の生徒が3名も3回戦に勝ち上がる活躍をしましたが、これらの大会を通して本校の選手諸君はもとより、私達関係者は闘志や努力・協調の心・友情の絆そして感謝の気持ちの大切さなど、この大会で得た多くの教訓が、お互い一人ひとりの生涯にわたり、人間としての生き方あり方について教え続け、どんなに苦しいときでも心の支えとなり、励まし続けるであろうと確信しております。この素晴らしい感動と貴重な数々のものを与えてくれた全国の選手諸君や、猛暑のなか活躍し大会を支えてくれた本校の補助役員の生徒諸君には心から賞賛と感謝の意を表したいと思います。

さらに、今大会が、全国高等学校の空手道・ボクシングの発展に少しでも貢献するものであり、同時に地元のスポーツ全体の発展にも強いインパクトを与えるものであることを願っております。

ところで、本校では特色ある学校をめざし普通科に文系・理系の他に国際・福祉・情報・の3コースを新設しておりますが、残念なことに、今年度からこれまで40年続いた薬業科が生徒の募集停止になり普通科5クラスと農業科学科1クラスの計6クラスになりました。長期にわたり地元産業の発展と町の活性化に大きく貢献してきた特色ある学科であるだけに県とも何回も交渉しました。しかし、生徒数減少により県全体で毎年16学級もの学級減少が続いており、致し方がないところであります。先輩の方々には非常に寂しく残念であらうと思いますが、今後とも本校の同窓生としてこれまでと同様に暖かいご指導・ご鞭撻とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# \*\*\*\* 思 い 出 \*\*\*\*

## 卒業50年

### 校訓－勤労と自治と向上－

卒業50年、私は昭和20年（1945年）3月に卒業したが、前年までの4年間は3ヶ月繰上げで12月の卒業であった。当時は人生50年、国や天皇陛下の為ならいつ死んでもよいと教育された時代であった。

入学当初から現在も変わらない上市川の橋から眺めた剣岳の雄姿、その左方に見える高さ30m余の三本杉（今は伐採され三杉公園）、20m余のポプラ並木。校門を入ると両側に茶が植えてあり、新緑の頃には白い花が咲いていた。続いて桜並木となり花のトンネルに入る。その正面に見えるのが正門と校舎であった。私達はこんな美しいところで勤労と自治と向上を学んだのである。（当時から現在の校訓）

在学中、学校行事の一週間は、月月火水木金で組まれ、全校養蚕宿泊実習、山野を切り拓く開懇実習、飛行機の燃料にするための松根掘りなどがあった。農業科では野菜・果物・花卉・農産加工実習。林業科では測量や宇奈月の奥山まで行つての植林宿泊実習。畜産科では、豚や牛馬の屠殺、解体実習などがあった。

年月の経過と共に戦時色が強くなり、幣衣破帽、制服制帽時代から国防色の戦闘帽と緑の制服となる。天皇陛下の写真の前や、先生方が陛下のお話をされる時、話す方も聞く方も直立不動になった。上級生に対しても絶対服従であり、また男女交際は退学処分となった。

上市農林学校林業科 第22回（昭和20年3月卒業）

### 立 田 浩

体力増強のため、魚津市まで往復36kmのマラソン大会、上級メダルを目標として60kgの土嚢を運搬し、35m鉄の玉を投げ、2mの高さの堀を越え、5mの川巾を跳び、100mを15秒で走り、武道の有段者になるため一つでも達成しようとしたものである。今考えるとよくぞ耐えたものだと思っている。この間、幾多の先輩が軍隊や軍関係の職場へいき、私達4年生も北海道へ勤労奉仕（前年まで海外）学徒援農に出征した。家では水盗をし16時間の汽車の旅となった。羊蹄山の麓の農家へ2人組で配置になり、隣は近くて300mのところ。一畦約100mの畑で人と馬との作業が8月末から10月末まで続いた。作業は馬鈴薯掘りと工場での澱粉作り、カボチャとデントコーンの収穫、牛の搾乳、他に週一回の教練などであった。

反面コメ不足で顔が黄色くなる位食べた餓カボチャ、牛の乳頭から直接口の中に入れた牛乳、生澱粉を焼き食べた味、裸馬に乗る訓練、帰富の日積雪30cmの中を統制物資だった金時豆を持てるだけ持ってきた事など、今だに印象深く忘れられないことである。

今残っている友は耐乏生活の経験者であるが、年の割に健康に恵まれた幸せな人達である。今は亡き師や先輩、友に感謝し、今後共残された人生を、勤労、自治と向上のため努力したいと願っている。

上市農林学校林業科 第22回（昭和20年3月卒業）

## 卒業40年

### 高校時代の思い出

学校にやっと復興の兆しが見え始めた昭和27年に入学した我々は、中学では、上市中学校に入学した年に、上

上市高等学校普通科 第7回（昭和30年3月卒業）

### 平 井 駿 二

市町湯上野の地に、全学年まとまって授業に入れたし、卒業年度には初めて修学旅行が開始され、京都で時代祭

りを見たものである。また高校では、今はないが、剣道会館あたりにあった真新しい校舎に入学と同時に入れたし、3年になって、出来上ったばかりの体育館でバスケットボールをした思い出がある。

我々は、上市中学を出て当然のように上市高校を受験した。今のように輪切りの志望校ではなく、他の学校に入ろうなどとは考えも及ばなかった時代であった。だから、中学の延長であったため、友達の成績も様々であった。これがかえってよいクラスを形成したと思う。分かりにくい問題を解いてくれる者、ボスの存在の者、相撲やスポーツのうまい者等々様々に幅広い人材がいたと思う。

思い出は断片的ではあるが、セーラー服に女子は足先に届きそうなスカート姿、男子は制服、制帽に肩掛けカバンを高歯に届く位まで下げ、カラ、コロと大道をのさばり歩いたものである。そして、掃除はしない上に高歯

をはいて教室を歩いては先生に叱られ、運動会の練習から逃れるために眼目の山に逃げたり、昼休みに竹のバットでテニスボールを打つ野球じみたことを本当に真剣にやり、雨や冬の日には、廊下で相撲を取ったり、机の上で腕相撲をして若さを発散したものである。また、長髪のこと、学校側と少しいざこざがあったこと、和倉温泉への修学旅行で風呂で大いにふざけ合ったこと、放課後にKの下宿で、女の子の話を陽が暮れるまで語り合ったことなどが思い出される。

部活動には、普通科の生徒はあまり入っていなかったと思う。当時は、スキー、ボクシング、馬術が強かったと記憶しています。

今は特に、ボクシング、空手道に良い指導者、選手が集まっているとのこと、本校スポーツの将来に期待するものです。

## 卒業30年

### 人生を折り返えす今

- 卒業10年組の案内を受けて：“やっど”10年経ったか。
- 卒業20年組の案内を受けて：“うそノ、20年？”
- 卒業30年組の案内を受けて：“とうとう、30年だ。
- 卒業後、各節目が巡ってきての感想です。

久しぶりにアルバムを開けば、難解な言葉をも機関銃のように発し、この世の絶対者かとかさえ思われた恩師の何と若々しく、そしてみずみずしいことかノ一方自分自身の幼さ未熟さに、つい第三者的な目になってしまいます。でも上市高校校歌を口ずさむたび、可能性は無限であると信じ、時間も悠久であると確信して止まなかった日々を思い返すにつけ、多感な頃の良き環境が今日の自

上市高等学校普通科 第16回（昭和39年3月卒業）

### 小森武次

分に大きな影響を与え続けていることに、反省と共に感謝と感動を覚えます。

戦後50年、と同じ年数の我々、名実共に人生を折り返したことに遅れ馳せながら気づいてから、信長の誦ったとか言う“人生50年 宇天のうちに。比ぶれば……”が無性に懐かしく、つい自分と同化してしまいます。これまでの大過ない前半生に感謝し、これからの後半生、一挙手一投足に“無限”と“悠久”を感じる日々の積み重ねの再出発でありたいと念じて止みません。

最後になりましたが“我らが母校”の益々の発展をご祈念申し上げます。

## 卒業20年

### 20年経っても

3年前、上市高校に赴任しました。  
上市高校を卒業して、もう20年。卒業後、体育教師を

上市高等学校普通科 第27回（昭和50年3月卒業）

### 井原麻理子

目指して大学進学。そして、夢は実現し現在に至っています。毎日、高校生を相手にしているので、年齢の差を

痛感するとともに時代の流れ、考え方の違いを身にしみ感じています。そして、自分の高校時代を振り返り、どうしても比較してしまいます。

これといって目標もなく入学したわけですが、女子バスケットボール部を創設し、顧問の先生との出会いにより、私の人生は大きく変わったといえます。もともと、負けず嫌いの性格だったせいもあり、「やればできる」「努力は必ず報われる」ということを知り、集中力が身についていきました。こういう精神力は、大人になってから身につくものではなく小さい時、特に大切なのは高校時代ではないかと思えます。現在もこの精神は忘れずにいるのですが、当時の若さがなくなっていました。

一昨年、同窓会10年組のお世話をさせていただきました。卒業して10年ともなると、公私共に多忙な時期であり自分のことで精一杯なのかもしれませんが、予想もし

なかった状況に大変淋しい思いをしました。

「思い出なんかない」とか「いやなことばかりだった」とか考えもしなかった返答に戸惑うばかりでした。いったいこの人たちは、どんな高校生活を送ったのだろうか、どんなにつらいことでも、月日が経てばいい思い出として、話すこともできるだろうに、とても不思議でした。今の高校生も「おもしろくない」「むかつく」といったことをよく口にします。しかし「おもしろい」「おもしろくない」とかの問題ではなく、いかに自分がおもしろいと思える高校生活を送るかということだと思います。

20年経った今、私の高校生活は「おもしろかった」と自信を持っていうことができます。

後輩たちにも是非、いい思い出を作ってもらいたいと願っています。

## 卒業10業

上市高等学校普通科 第37回（昭和60年3月卒業）

### 卒業して10年と聞いて

寺井 敏 光

「10年組」の知らせを受けたとき、「ああ、もう10年経つのか……」と思いました。確か、卒業間近のホームルームで、「10年組の集い」のことは聞いていました。「そんな10年先のことを」と軽く受け流していた私たちは、まだ18歳の頃。

卒業後、私は静岡の大学に進学しました。県外に出ると富山が本当になつかしく、とても人恋しくなります。夏と冬帰省するたびに、高校時代に得た親友と連絡を取り合い再会していました。剣道部そしてクラスでの傑作話と、毎回話すごとは同じでも、会うと必ずそこから始まるから、実に不思議です。きっと、しばらく会ってなかったのが「親友の心が昔と変わっているのでは？」という不安な気持ちをお互いに和らげようとしたのかもしれません。

就職の際、富山に戻り1年おいて教師になりました。なんとか幼い頃からの夢にたどり着き、今は若さにまかせ無我夢中でやっています。高校3年の夏頃、「教育学部

を選ぶか、工学部を選ぶか」進路の自己決定に悩んでいました。恩師穴口幸雄先生は、右か左かは言わずに、私の話を聞き「私の本心」にうまく導くよう適切なアドバイスをしてくださいました。私の今は、その瞬間からつながっているような気がします。そんな恩師と私の関係が生まれ、年賀状のやりとりが始まって早10年目。いつも極めてシンプルな葉がきが、穴口先生らしさを物語っています。

今、同級のみんなは28歳となって、仕事に一生懸命であったり、新しい家庭を持ち未来に向け真摯な気持ちで毎日がんばっていることと思います。けれど、タテ社会でのつながりを優先させ、あの頃のあの友達と会いたいのに会えずにいるのは私だけなのでしょう？誰が作ったのか「10年組の集い」。私はこのすばらしい企画に乗っかろうと思います。そしてヨコへの広がりができて、また再び楽しいエピソードがそこから生まれたらと思います。